

F e e l R i s k !
～ 危険を感じとれ ～

全国安全週間は、昭和3年に初めて実施されて以来、「人命尊重」という基本理念の下、「産業界での自主的な労働災害防止活動を推進し、広く一般の安全意識の高揚と安全活動の定着を図ること」を目的に一度も中断することなく続けられ、本年で94回目を迎えます。

昨年からの新型コロナウイルス感染症の拡大防止に係る対応については、内閣総理大臣からの緊急事態宣言が発令されたことにより、これまで経験したことのない接触機会の削減などを求められています。

この間、休業要請による事業活動の停止など経済への影響が深刻な事態となっており、本年に入ってから3度目の緊急事態宣言が一部の都市に発令されるなど、今後も継続して感染症の拡大防止対策を最優先に取り組む必要があります。

さて、令和2年の神奈川県下の労働災害は、37人の死亡災害が発生し、前年比13人増加したことにより、増加件数が全国ワースト1となり、休業4日以上死傷災害も7,617人と3年連続して増加する結果となりました。

川崎市内においても医療機関や社会福祉施設における新型コロナウイルス感染症の集団感染が発生したほか、高齢労働者の労働災害が増加したことなどにより、1,061人の死傷災害が発生し、発生件数が20年前の水準まで後退して多発している状況に危機感を強めなければなりません。

本年は、

「持続可能な安全管理 未来へつなぐ安全職場」

をスローガンに7月1日から7日まで全国安全週間が展開されますが、事業場内外での感染症防止対策に加え、安全管理水準を後退させることなく、労働災害防止の取り組みを推進いただきますようお願いいたします。

近年発生している労働災害は、発生原因に労使双方の危険意識が欠如していると考えられるものがありますので、職場に潜む危険を正しく理解し、労働者に感じてもらうことが重要となります。

労働災害防止の取り組みについては、安全を最優先させる組織文化となるよう、労使協力して、安全文化を継承し、労働災害の減少に寄与いただきますようお願いいたします。

令和3年6月1日

川崎南労働基準監督署長

川崎北労働基準監督署長

大会宣言

令和二年度のわが国の景気状況は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、経済活動の抑制やインバウンド需要の消失などにより日本経済や事業場を取り巻く環境が厳しい状況にあった。

令和三年度も経済活動の低迷が予想され、先行き不透明な状況が続くと見込まれるが、一日も早い回復を願いながら、安心して安定した環境を取り戻すことを期待する。

こうした中、雇用労働情勢の厳しさは依然続いており、働き方改革関連法案の成立に加え、事業場では感染防止対策の一環として在宅勤務やテレワークの推進など働き方に変化が生じているが、今後働く者の安全と健康は最優先されるものになり、**「安全なくして、企業なし」**の原点を忘れてはならない。

令和二年の川崎南労働基準監督署管内における労働災害発生状況は、死亡災害二名を含む、休業四日以上の死傷者数が五二五名と、前年に比べ十一名増加、比率で二・一パーセント増加し、増加傾向に歯止めがかからず残念な結果となった。

このような事態を改善すべく労働基準監督署をはじめとした行政官庁の御指導を受け、災害防止活動を強力に推進し労働災害発生の低減に邁進すること。また、本年は「第一三次労働災害防止計画」の四年目にあたり、各事業者をはじめとした関係者は、この計画の達成に向けた取り組みを推進する。

第九十四回全国安全週間は、六月一日から三〇日までを準備期間、七月一日から七日間を本週間として全国的に展開される。スローガンに

『持続可能な安全管理 未来へつなぐ安全職場』

を掲げ、本週間を契機として、それぞれの事業所において経営トップの率先垂範のもと、全員参加でリスクの低減を図り、「安全」「健康」「快適」な職場の実現に向けて英知と力を結集し、最大限の努力をすることをここに誓う。

右宣言する。

令和三年六月三日

全国安全週間川崎南地区推進大会